

1987年度物性若手夏の学校報告

こないましたが、活発な議論もなされました。

内容は、下記のとおり

1日目 『鎖のダイナミックス』 土井正男(都立大・理)

2日目 『ポリマーブレンドの相分離過程』 高橋正人(都立大・工)

『ブロック共重合体のマイクロ相分離』 興梠光治(九州大・理)

いろいろな話をききたいという意見がありましたので、ポスターセッションで発表予定の興梠さんにも発表していただきました。

御協力下さいました皆様に、この場をかりて御礼申し上げます。

(文責 生方, 酒向)

サブゼミ 磁 性

「ラーベス相を中心とした金属間化合物の磁性」

{ 講 師 志賀正幸(京都大・工)
発表者 山崎隆司(筑波大・工)

磁性における基本的な問題のなかで、今回は志賀先生に、ラーベス相金属間化合物の磁性をスピンの揺らぎの観点から講義していただいた。

まず金属の磁性について、バンド理論、局在電子モデルから始まり、スピンの揺らぎ理論へと進んでいった。その中で、スピン揺らぎの温度変化、帯磁率、磁気体積効果などについて丁寧に解説していただいた。

後半は、Laves 相金属間化合物の実験データ、主に熱膨張について、その解析とスピン揺らぎとの対応を話して頂いた。

また、発表者の山崎さんは、「f 電子系のホール効果」として、Ce 化合物のホール効果と、電気抵抗、帯磁率との関連を発表して頂いた。

(文責 熊谷和夫)